

# 本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2016年7月1日発行（毎月一回発行）第702号

ISSN 0286-7001

## 出会い・本・人

キリスト教教育の担い手 高橋 潤

## 本・批評と紹介

ジョン・グリーンリーフ・ホイットティア 著／根本 泉 訳  
雪に閉ざされて 柴崎 聰

福嶋裕子、大宮 謙、左近 豊、S.ヘイフマン 編著  
3・11以降の世界と聖書 並木浩一

竹内 緑 著  
ルワンダ 闇から光へ 神田英輔

T.ピーターズ他 編／小河 陽 訳  
死者の復活 芦名定道

小原福治 著  
律法の彼方に 笠原義久

ヨゼフ・ドミヤン 版画／押田成人 詩  
白い鹿 若松英輔

浅野淳博、伊東寿泰、須藤伊知郎他 著  
新約聖書解釈の手引き 河野克也

大沼潤子 著  
雑草庵日記 佐藤司郎

加藤常昭 著  
説教への道 後宮敬爾

柳澤嗣世 著  
中心を見定めて生きる 深井智朗

川端純四郎 著  
教会と戦争 小海 基

エラスムス 著／金子晴勇 訳  
キリスト教古典叢書  
エラスムス神学著作集 加藤 武

戸田 聡 編訳  
砂漠に引きこもった人々 久松英二

本屋さんが選んだお勧めの本  
近刊情報  
書店案内

7 JULY  
2016



# 信じることをためらっている人へ

## キリスト教「超」入門

求道者に気軽に勧められる書



岡野昌雄

(国際基督教大学名誉教授、フェリス女学院大学前学院院长)

キリスト教にまつわる素朴な疑問にやさしく回答。「右の頬を打たれたら左の頬を出さなくちやいけないの?」「奇跡は本当?」「復活ってなに?」「信じたらなにかいいことがある?」聖書が描く意外なイエス像からキリスト教用語まで、楽しくやさしいキリスト教「超」入門書。 ◆B6判・本体1200円

## パウロ小書簡の神学

〔叢書新約聖書神学9〕

K・P・ドンフリード、I・ハワード・マーシャル著／山内二郎、辻学訳

第一、第二テサロニケ、フィリピ、ファイルモンを扱う。書簡の歴史的状况と構造を概観し、パウロが伝えようとした使信の内実を探り、さらにその使信が今日いかなる意味を持つかという「適用」にも及ぶ。 ◆四六判・本体4000円

## 教会と戦争

3年前に惜しまれつつ逝去した著者の、残された論文・講演録などから、今必読の28編を精選。

川端純四郎著 戦争責任から奏楽者の務めまで



戦時下、牧師館の少年だった著者が見た父の姿、特高が監視する礼拝、長じて留学の途次に出会ったアジアの貧しい子どもたち、ドイツで師事したブルトマン、中国人の友、そして帰国後に学び始めたマルクス……。宗教学者、実践家、教育者として教会に仕え続けた篤実な信徒、その多面的で広範な活動の根底にあった思想と信仰。 ◆四六判・本体2500円

## 使徒行伝 下巻

【現代新約注解全書】

荒井 献

ついに上・中・下巻、完結

◆A5判・本体9000円

下巻は18章23節から最後まで。なお巻末には補論として「最後のパウロ——使徒行伝28章30—31節に寄せて」および緒論的な「概説 使徒行伝」を収める。

既刊

使徒行伝

上巻 ◆本体6000円

中巻 ◆本体9000円

## 人が神にならないために 説教集

荒井 献

著者初の説教集。入手し難かったコイノニア社版を復刊。 ◆B6判・本体2000円



## 出会う・本・人

### キリスト教教育の担い手——高橋 潤

二〇一一年四月より思いかげず、キリスト教教育を推進する中高一貫校である名古屋中学校・高等学校(建学の精神「敬神愛人」)の校長として遣わされることとなりました。

毎朝の職員朝礼は、聖書朗読と祈りによって開始します。中高全学年週一時間聖書の授業があり、各学年週一回約四〇分のチャペル礼拝が行われます。専任職員のキリスト者は一割以下ですが、積極的な協力者が多く与えられています。礼拝のお話しはほぼ全教員が担当します。春季伝道週間、秋季伝道週間、創立記念礼拝、クリスマス礼拝が年間行事に組み込まれています。各学年にクリスチャンではない教員が礼拝司式を担当してくれます。嬉しかったことは、聖書を読まないで自分の経験談などを話す礼拝から、ノンクリスチャンの教員が自分の心にとまった聖句を紹介しつつ礼拝のお話しをしたり、聖書の言葉と格闘したお話しをするようになってきたことです。小さな自慢は礼拝開始時「静かに」と叫ぶことなく、講壇に司式者が立つと生徒はすみやかに私語をやめ黙祷の姿勢を取ることです。学内配布文書には、聖書のみ言葉が記されるようにしました。一人でも多くの生徒や保護者が在校時代に神の言葉に触れる機会が与えられるように願っています。

キリスト教教育の担い手にとって最も大切なことは、この職務

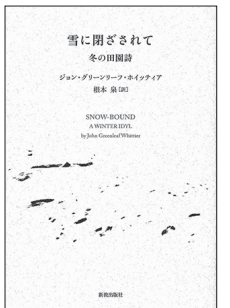
を神さまから与えられた使命として受け止め、献身して生徒を愛し、キリストの赦しと忍耐に支えられ励まされて学舎に仕えることだと思っています。そのような中で本校に関わる頃出版された深谷松男著『キリスト教学校と建学の精神』(日本キリスト教団出版局)によって、信教の自由の問題を整理することが出来ました。教会教育と学校教育の将来のために、青山学院大学キリスト教文化研究センター編『ジョン・ウエスレーと教育』を通して、キリスト教教育の原点と力を学び励まされました。

キリスト教教育の理想は、家庭での親から子への信仰教育です。親子の対話が様々なことで困難になっています。だからこそ、人生の大切な土台を築く上で、現代こそ親子の信仰の対話が求められていると痛感します。『宗教改革著作集14』(教文館)に所収されているマルティン・ルター「小教理問答」(徳善義和訳)の「手引き」の危機感と「お父さんは家の人たちにこれをいかにやさしく教えるべきか」に共鳴しつつ、与えられた使命を全うしたいと願っています。

(たかはし・じゅん) 日本基督教団中京教会牧師、名古屋中学校・名古屋高等学校校長

アメリカの国民的詩人の最高傑作  
 ジョン・グリーンリーフ・ホイットリア著  
 根本 泉訳

雪に閉ざされて  
 冬の田園詩



柴崎 聰

この詩集を一読して想起したのは、アメリカ東部の画家アン  
 ドリュエ・ワイエスの絵である。その絵は日本人の感性にかな  
 った内容であったからか、美術愛好家に非常に愛され、日本に  
 おいては何度も個展が開かれてきた。訳者解説によれば、ホイ  
 ッティアはアメリカ東部のマサチューセッツ州ヘイヴァリルで  
 生まれている。ワイエスはペンシルヴェニア州フィラデルフィ  
 アの近郊チャップ・フォードの生まれであるから、気候、風土、  
 気質、特に雪景色は酷似しているのではないか。

このことを単なる思い付きで言っているのではない。ワイエ  
 スには、ホイットリアの詩の一節がそのままではまるような  
 場面が多いからであり、雪景色に凜とたたずむ農家や「飼犬は、  
 眠そうな頭を火に向けて、／ゆったりと伸ばした前足を載せ」  
 という詩行に暖炉の側の団欒の暖かさがあるからである。

詩人ホイットリアは、訳者の「解説」にかなり詳しく紹介さ  
 れている。ここで留意すべきことは、ホイットリア家が代々ク  
 エーカー派の信仰を守ってきたこと、彼自身、奴隷廃止論者  
 であり、奴隷解放運動に挺身してきたことである。

それらは、詩行にも次のようにうたわれている。「痛まし  
 内容の、シェーエル（オランダのクエーカー教徒の歴史家）の  
 古びた大きな本から、／殉教によって火の翼を得た／信仰につ  
 いて語った」、「彼らは無慈悲な階級制の偽りを論駁し、／古き  
 形を鑄直し、「奴隷制」の鞭に代えるに／自由人の意志をもつ  
 てし、／盲目の日課に代えるに、賢い手の技術をもつてするで  
 であろう」と表現されている（盲目と訳された単語は、原文では  
 blindであるが、「無意識の」と訳した方がよかつたのではない  
 か）。

本詩は、七五九行に及ぶ長詩である。少年時代に大雪が降つ  
 た時の思い出を克明にうたつた牧歌詩である。家の状況も含め  
 て、自然描写は生き生きとしていいる。太陽の描写では、「曇り  
 ゆく空に、ゆつくりと、／声なき不吉な予言、／かすかな脅威  
 の兆しを描いて、／日没前に姿を消した」というように、単  
 なる叙情詩ではなく、形而上詩の趣きすら漂わせる。

身内の描写には、愛情と尊敬がこもる。「わたしたちのおじ  
 は、本については無知だが、／野や小川、すなわち「自然」の

屋根のない講堂の、／決して口をつぐむことのない古来の教師  
 たちの、／言い伝えを沢山知っていた。」その中身は、月の満  
 ち欠けや潮の干満や天候の中から自然を読み解く力である。

「わたしは今も彼女の快活な／微笑みと声を夢に見、また聞  
 くように思われる」おばは、孤独で家を持たなかつたが、無私  
 の愛の中にこそ平安を見出す人であった、と優しい。

姉にも愛情溢れる次の詩行が捧げられる。「秘めたる自己犠  
 牲を、／多くの明るい装いによって覆い隠しつつ。／ああ、ひ  
 どく試みられた人よ！ あなたには天国が／与えることができ  
 る最善のもの——安息がある」と励ます。

彼らは、轟々と唸る風の音を聞きながら、床に就いている。  
 だからこそ、家のありがたさといとおしさが分かるのである。

一家の中で培われてきたキリスト教の「信仰にあつては分か  
 れていても、愛にてはひとつ」という詩行が際立つ。

最終連では、万感の思いを込めて「この旅人は、近くに漂う

よき香りに感謝の思いを抱き、／いずこより来るかは知らずと  
 も、／立ち止まって帽子を脱ぎ、／天からの祝福を受けとめる」  
 とある。「この旅人」とは、この長詩の語り手であり、おそら  
 く等身大のホイットリアであろう。

本詩集は、雪に閉ざされたがゆえに奇しくも与えられた、真  
 冬の文学的果実である。狭隘なひと所に幽閉されたがゆえに、  
 その変幻自在な想像力がどうしようもなく飛翔したその航跡で  
 もある。

巻末には、英語の原詩が併記され、読者の便利に供されてい  
 る。長詩でありながらも、忠実に脚韻が踏まれていることを知  
 ると異質の感動に包まれる。

（しばさき・さとし詩人、大学講師）

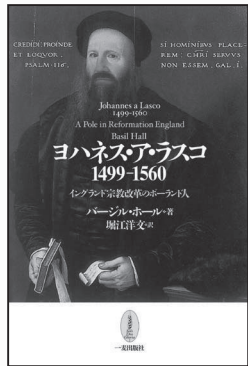
（四六判・二二八頁・本体一七〇〇円＋税・新教出版社）



ヨハネス・アラスコ  
 1499-1560

イングランド宗教改革のポーランド人

バージル・ホール  
 堀江洋文\*訳・解題



初の評伝！

カルヴァンの理想を  
 実現させた宗教改革者。  
 日本の長老制をとる教会の  
 源流がここにある！

四六判変型・上製  
 定価【本体 2,200 + 税】円  
 ISBN978-4-86325-095-6



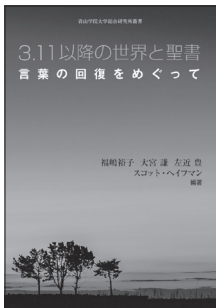
株式会社 一麦出版社  
 札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10  
 TEL (011) 578-5888  
 http://www.ichibaku.co.jp  
 携帯 mobile.ichibaku.co.jp

世界も言葉も崩壊した中で聖書から何を語るのか

福嶋裕子、大宮 謙、左近 豊  
スコット・ヘイフマン編著

### 3・11以降の世界と聖書

言葉の回復をめくって



並木浩一

3・11の天津波と原発事故による巨大複合災害は多くの人命を奪い、放射能汚染は人々を大量に避難させ、帰還の完了と生活再建の見込みが立たない。人々の不安も心の傷も癒しがたい。「俺のほんとうの気持ちを言おうか」、「もう一度津波が来て、みんなが俺たちと同じ目に遭ってほしい」。

かように災害の当事者たちの気持ちは複雑で、概して寡黙だ。復興にすぎず人々は放射能を禁句としている。原発事故がなかったことにしたいのは、国家だけではない。また教会内でも原発の発言には慎重さが求められる。

他方、国家権力者は「福島復興なくして日本の復興はない」と胸を張りながら、原発再稼働を国策だと宣言する。国際社会に向かつては「フクシマは完全に制御されている」と公言する。不誠実な言葉が氾濫する。

「言葉」が崩壊し続ける今日にも、教会は語らねばならない。キリスト者は聖書を根拠にして何をどう語るか、聖書から現代の課題に対するメッセージを取り出せるか。探索が必要である。

織り込むほかはないだろう。それが3・11以降にあらわになった。三人の証言は味わい深い。少しだけ引用したい。

「震災後、わたしにできたことは基本的にはなかったと思います。けれども、そこにいさせてもらい、無力だけれどもこの人と共に、あるいはわたしはわたしでキリストに向かつてうめく、叫ぶ……。それは無力の中で立ち上がる祈りの変形バージョンですが、そのようにしてそこにいることを続けた、ということになるかと思えます」(井形英絵)。「私は、キリスト者はずっと絶望を直視しなくてはならないと思います。…神が創ったこの世界を、私たちが破壊し、生命を脅かす世界に変えてしまったのです。…きれいな言葉だけで希望を語るのには、もうやめてと言いたい」(片岡輝美)。「結局、誰にも負えない責任というもの、そこに転がっている。それを負える人が、どううしても必要なんだけど、いない。そのときに、負わなくてもいい人だけが、その責任を負える」(川上直哉)。

その課題に駆り立てられた青山学院大学の二人の宗教学主任、福嶋裕子と大宮謙が研究プロジェクトを発案し、美竹教会牧師の左近豊を引き入れて3・11の翌年には研究を開始した。発案者たちは新約時代と現代キリスト教に関心を持っており、左近は旧約の哀歌研究を通して現代における聖書の語り方に深く思いを寄せている。この三名が五編の研究を提出した。それに加えられたのが、英国セント・アンドリュース大学神学部のスコット・ヘイフマン教授が昨年日本で行った二つの講演である。本書に重みを与えるのは第一章で、災害と取り組んできた牧師と教会員三名からの取材「証言」を収録する。その前に左近が聖書における証言の意味を考察した序言を置き、「証言」としての聖書テクストの意味を説く。ブルッゲマンによれば、旧約聖書は核となる救済史の証言と、神の不在、暴力、不条理を苦悩の内に吐露する「対抗証言」という二つの証言群から成り立つ。キリスト教会は旧約の伝統を継承して救済史に属する者の証言を続けるが、今日の教会は自己の無力という対抗証言をも

第二章から第八章までは、四人の編者たちが3・11を意識しつつ、主として聖書の具体的な読み方に挑んだ意欲的な諸論文である。ヘイフマンはイエスの発言から天災と人災の不分離を読み取り、パウロの苦難をも考察する。左近はイスラエルの崩壊体験がもたらした創造世界の「混沌」感覚を論じ、人々が破壊体験後に苦しみへの共感を求める呪いの叫びを哀歌から読み取る。大宮は湖上を歩むイエスに対するペトロの疑いが信頼と裏をなしており、今日に意味を持つと述べる。福嶋は黙示録を取り上げて裁きを求める死者の声と正義に生き抜く共同体形成の重要性を論じ、正義の裏付けなき現代技術に対する批判をも喚起する。

いずれの論文も今後の討論に値する考察の数々を提示する。討論の機会を経て課題をさらに深めて欲しいと願う。

(なみき・こういち) 国際基督教大学名誉教授  
(A5判・二二〇頁・本体一七〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)

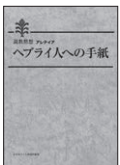
### MO SELECT がん哲学外来で処方箋を カフェと出会った24人 樋野興夫 編著



病気であっても、病人ではない生き方へ  
対話によって医療現場と患者の間の「隙間」を埋める「がん哲学外来」。この外来に出会い、「言葉の処方箋」を得た24人が自身のがん体験を語る。  
四六判・1600頁・16200円



### 説教黙想 アレティア ヘブライ人への手紙



季刊誌「説教黙想 アレティア」第84-86号に連載された  
説教黙想の合本。牧師・伝道師・神学生必携の書。  
B5判・206頁・3564円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyoubu@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》  
<http://bp-uccj.jp>

「神のものがたり」に組み込まれていく喜び  
竹内 緑著

## ルワンダ 闇から光へ 命を支える小さな働き



神田英輔

アフリカの紛争地域や難民キャンプで、医療従事者として働く現実とはどのようなものなのか。アフリカのソマリア・ザイル（現コンゴ民主共和国）・ルワンダ・モザンビーク・エチオピアなどの緊張感漂う地に長年身を置いてきた著者が書き下ろした文章が語りかけるものは、「平和ボケ」の日本人に「平和」とは何かを改めて問いかける現実です。

一九九四年ルワンダから大量の難民が出てきたことに対処するためUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）はザイル・ゴマに難民キャンプを設置しました。この事態を受けて私が当時奉職していた国際NGOは、ソマリアで働いていた著者・竹内緑氏のザイル派遣を急遽決定しました。派遣された当時、難民キャンプではコレラが大流行し毎日三千人から五千人が亡くなるという状態が何日間にもわたって続き、診療所に向かう道の両側には死体がうず高く積み上げられ、耐え難いほどの死臭に苛まれたと聞いています。著者自身この時点で精神的にかなり傷を負っていたのでしよう。ですから私が著者と一緒にルワンダに入った際、惨殺され道端に放置されていたいくつもの

死体を発見し記録に収めようとした際も、「これ以上死体を見るのは嫌だ」と言って車内に留まっていた著者の姿を思い出します。

本書にも詳しく記されているように、著者は、そのうちに、自分が助けていたこの難民たちが実はルワンダ国内で虐殺を繰り返していた者たちだったという事実を知るようになり、この虐殺者たちを助けることが道義的・倫理的に妥当なのかという活動の矛盾に苦しむこととなります。しかし著者は働きを続けるのです。大虐殺の際にレイブされたり、肉親を殺されたりしたため今なおトラウマ（大きな精神的ショックや恐怖が原因で起こる心の傷）に苦しむルワンダ女性を放っておくことができずに彼らに寄り添い献身する著者の姿には、イエスの心を生きようとする揺るがない信仰者の生き方を見せられます。

「将来、医療従事者としてアフリカで働きたいと願っていますが、そのためにはどんな準備が必要ですか？」一九八〇年代中頃、鳥取県の小さな教会で奉仕した際、当時看護師をしていた著者が私に投げかけた質問です。「まず、聖書をしつかりと

学ぶこと、次に、働きの現場では医療従事者が一人だけという場合も多々あるので今の病院で看護師の領域を越えた事態にも対応できるだけの経験を積ませてもらうこと、最後に、英語を身につけること」と答えたことを思い出します。この出会いから約一〇年後、すっかりそのことを忘れていた私の前に姿を現したのが貧しい人々に仕える道を選んだ竹内緑氏でした。

そのうちに紛争続きのソマリアから医療従事者を派遣して欲しいとの支援要請のFAXが届きました。ちらりと竹内氏のことを考えないことはなかったのですが、こんな危険な場所に英語も不十分な者を送ることは不適切と判断した私は、この要請を誰にも知らせずにいました。数週間後、ソマリアからの要請など知る由もない著者が「私をソマリアに派遣してください」と申し入れてきたのです。同じ事務所の中ですので、何らかの拍子にこの要請を知ってしまったのでしよう。主に命を捧げた覚悟を語る著者の熱意は、派遣に消極的だった私を動かすに充

分でした。「主の御心なら」道が開かれるであろうとソマリアとの交渉を始め、やがて受け入れの返事があったのです。大きな英語のハンディーを抱え不安一杯ではありましたが、道が開かれたのです。

今回出版された『ルワンダ 闇から光へ——いのちを支える小さな働き』は、この著者の熱意と献身に対して、主がどのように道を開いていかれたのかという「ものがたり」です。ひとりの女性が主を愛し、苦しんでいる方々に寄り添う道を選びました。その時に、ひとつの点にすぎないような小さな働きにしか見えないものが、壮大な「神のものがたり」に組み込まれていることを悟って、小さな自分の活動に意味を見出し、いくつものプロセスが見事なまでに描き出されています。きっと、読む者に感動を与えると信じます。

（かんだ・えいすけ）「声なき者の友」の輪（F.V.I.）創立代表  
（四六判・一〇四頁・本体二〇〇円＋税 日本キリスト教団出版局）

# 神学ダイジェスト120号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2016年 6月発行  
A5判128頁  
定価630円（税込）

### 特集 三位一体論

生活の中で追体験されている父と子と聖霊

三位一体に関する考察

社会的三位一体神学と交わりの教会論

三位一体の似姿としての人間

ただ一つの霊と神の多様性について

今日の秘跡

聖書の中の暴力

（第五回）『正教神学概論』——キリスト論——  
家庭に関するシノドス

鳥巢義文

K.ラーナー

B.M.ドイル

A.デーケン

M.アマラドス

A.ティールガ

O.フックス

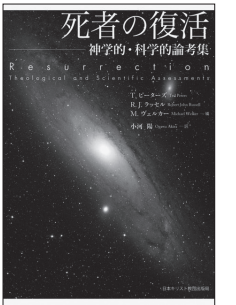
V.ロスキー  
C.ラム

上智大学神学會  
神学ダイジェスト編集委員会  
東京都練馬区上石神井4-32-11  
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349  
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

「復活」をめぐる神学と科学との創造的対話

T・ピーターズ他編  
小河 陽訳

死者の復活  
神学的・科学的論考集



若名定道

復活は、キリスト教信仰にとって核心的な事柄に属している。しかし同時に、復活は多くの現代人にとってはまさに躓きの石とでも言うべき問題であろう。近代以降、神学においても、この躓きの石を取り除くさまざまな努力（本論集では客観主義と主観主義に分類される）がなされてきたが、近年、復活をめぐる問題状況は新たな段階にさしかかりつつある。この問題状況を代表する論文集が邦訳され、日本の読者も復活をめぐる新しい思想動向に触れることが可能になった。それは、二〇〇一年にハイデルベルクで開かれた国際フォーラムの成果出版であり、そこには著名な科学者や神学者が、多く名前を連ねている。科学者と神学者が正面から「復活」に挑んだ十八の論考が、編纂者の一人であるテッド・ピーターズの序論に続いて、四部（第一部 復活と終末論的信頼性）、（第二部 体の復活と人格の同一性）、（第三部 復活と自然法）、（第四部 復活、新しい創造、そしてキリスト教的希望）に分けて収められている。本論集で扱われる問題は多岐にわたり、一つひとつの論考の性格も多彩であるが、本論集の基本的な構想・特徴について

は、ピーターズによる「序論」などから、読み取ることができ。以下、本論集の注目すべき議論の一端を紹介してみよう。「復活」問題にアプローチするため、本論集の諸論考では、現代科学とキリスト教思想という二つが基礎資料として用いられるが、前者には宇宙論・物理学、生物学、脳科学などが、そして後者には聖書（ルカ文書とパウロなど）とキリスト教思想史（オリゲネス、ニュッサのグレゴリオス、アウグスティヌス、シユライアマハー）が含まれる。この多様な資料によって問われるべき中心テーマとして挙げられるのは、「復活」に関わる「同一性」の問題である。すなわち、キリスト教的復活理解の基本である「体」の復活について言えば、まず問われねばならないのは、キリストの「復活前の体」と「復活後の体」との同一性をめぐらる問題であり、それは「体」に関する現代科学（生物学）の議論とも関連しつつ、「連続性と非連続性」の問題として定式化される。本論集では、この「連続性と非連続性」という定式はさまざまな文脈で繰り返され、たとえば、われわれ人間の終末における復活の場合には、現在の体と復活の際の体

の「連続性と非連続性」となる。「霊の体」（パウロ）が何を意味するかは、この点に関わっており、本論集では、「古いものからの再創造」（「無からの創造」とは異なり、また自然的なプロセスにおいて可能となるものではない。それは神の恩恵・贈与である）の議論へと展開される（ラッセル、デイリーら）。

この「体」における復活の対極にあるのが、現代科学において構想される「サイバネティック的不死」（人の脳のパターンを機械に移すこと）であり、それは人間の人格的同一性の問い直しを要求する。これに対して、マーフィーは非還元物理主義の立場から、復活の前後で問われる人格の同一性（連続性）には、記憶の連続性では不十分であり、「われわれの道徳的性格」が不可欠であると主張する。ともかくも、現時点において、サイバネティック的不死は「空想科学小説」（ヘルツフェルト）の域を出ない。

では、世界の終末（科学的宇宙論は宇宙の未来像を「熱的

死」として描く）や人間の死を超えた、復活前後の「同一性」は、最終的にどこにその根拠を求めうるのだろうか。本論集で示唆されているのは、「神の誠実さ」、「神の記憶」という論点である。もちろん、「神の記憶」についても、どこまで理性的探究が可能か、「最後の審判」とどう関係するのかなど議論は尽きない。本論集を通して、神学と科学とが復活をめぐる創造的対話に招かれていることを確認することは、現代世界を生きるキリスト者にとってきわめて意味深いものと言えよう。

（あしな・さだみち 京都大学大学院文学研究科教授  
A5判・四四二頁・本体五六〇〇円＋税 日本キリスト教団出版局）

神学会編・「神学」77号  
2015年12月26日発行

「神学」は半世紀以上も読み継がれた神学専門誌です！

主題：「福音と福音主義」  
棚村重行教授献呈論文集

福音と日本人の共同幻想 ……芳賀 力  
教会の公同性をめぐって ……神代真砂実  
「福音と福音主義」再考（一） ……棚村重行  
日本メソヂスト教会「宗教簡条」第16条の成立をめぐって…落合建仁  
J.C.ヘボン著「修心論」にみる福音伝道への取り組み ……小室尚子  
「福音主義的公同教会」の建設のために ……林 牧人  
福音は日本と中国のはざ間の波濤を越えられるか？…松谷暉介  
（その他自由研究1本掲載）  
A5判・201頁・定価2,400円＋税

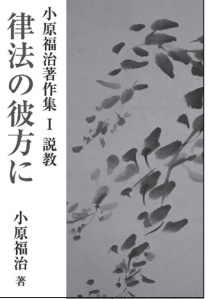
「伝道と神学」6号  
2016年3月25日発行

「伝道と神学」は東神大と教会を結び伝道実践と神学の雑誌です！  
日本伝道協議会全国大会記録(2015.6)  
主題：現代の日本で、なぜ福音を信じ伝えるのか  
特別講演：アジアの文脈における日本伝道 ……洛 雲海  
「福音と福音主義」再考（二）…棚村重行  
聖書学と聖書の伝統的解釈…田中 光  
聖書正典(カノン)と「信仰の規範(カノン)」：その相互作用について…中野 実  
テサロニケの信徒への手紙一、二における主の再臨についての教え…焼山満里子  
ヴォルフハルト・パネンベルクにおける福音と教会…須田 拓  
Picture Perfect Paradise Pursuit: Our Family and God's Family …Wayne A. Jansen  
（その他博士課程後期学生論文2本掲載）  
A5判・237頁・定価1,500円＋税

お買い求めは  
全国キリスト教書店または  
本学へ直接お申し込みください  
〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-30  
東京神学大学 総務課  
Tel 0422-32-4185 Fax 0422-33-0667  
E-mail soumu02@tuts.ac.jp

純で偽りのない言葉の吐露  
小原福治著

### 律法の彼方に 小原福治著作集Ⅰ 説教



小原福治著作集Ⅰ 説教  
律法の彼方に  
小原福治著

笠原義久

小原福治牧師（一八八三―一九六五）の召天五〇周年を記念して、小原牧師が長く牧会にあたった日本基督教団長野教会の信徒有志の方々のご尽力によって本書が広く世に問われたことを心から喜びとするものです。

小原牧師は、終生教育界に身を置かれました。小原牧師が奉職したのはまさに信州大正デモクラシー運動の最中にあたり、白樺派などの影響もあり、ある公立学校の教員の半数近くがキリスト教会の礼拝に出席するほどであったと言われます。一九三一年、小原牧師自身の言葉をもってすれば「信仰より出でて信仰に」、「罪の増すところに恩恵も弥や増す」事実を獲得する「回心」の出来事に直面します。そして公立学校の校長職にあつて、同時に長野教会の講壇を担う牧師として立たされることとなります（教団正教師に任じられたのは一九五二年）。

小原牧師がキリスト者として信州教育界に与えた感化と影響には絶大なものがあります（このあたりの消息については、塩入隆著『信州教育とキリスト教』を参照のこと）。小原牧師の薫陶を受けた一人の長野教会員である公立学校の教員との教室

での出会いなくして、この筆者もイエスと出会うことはなかったでしょう。

さて、筆者は、小原牧師の最晩年にその説教を一度だけ聴いたことがあります。それは単刀直截で、容赦なく私のエゴを露わにし悔い改めを強く促す、洗礼者ヨハネのような鬼気迫るものでした。小原牧師の「講壇ノート」が残されています。ノートと実際の説教とを照らし合わせると、説教に向かう姿勢がよく分かります。構想が決まるとノートに書き、聖書を読んでは幾度か考え直して修正を加え、多いときには説教案を四、五回書き直し、さらに絞りに絞って単純化し、祈りに祈って講壇に立ちました。しかも説教の時は全くこの案を捨て、とらわれることなく語りました。本当に説教者の模範としたいところです。説教の内容的なことに触れなければなりません。小原牧師の説教は、福音の「告知」であるとともに、ご自身の「告白」でもあります。復活祭の説教には次のようにあります。

「……お前は本当に肉体のキリストの復活を信じるか、と問い詰められた時、私は信じるという良心的な勇氣はない。もし

密な意味において「福音的」な説教であると言つてよいでしょう。小原牧師が敬慕した高倉徳太郎牧師の「恩寵は人生究極の實在なり」という真実に捉えられ、その恩寵に打ち砕かれ、貫かれ、そして飛躍した説教者の驚きと喜びが、そこには躍動しています。

（かさらは・よしひさ）日本基督教団信濃町教会牧師  
（A5判・四四四頁・一八〇〇円＋税・キリスト新聞社）

牧師が苦もなく平気で今の時代において、聖書の通りに、史的事実という根拠だといつてそれを信じるというならば、私はその牧師の良心を疑う。……私たちの実際の生活において、キリストの十字架の罪の贖いは一点の疑うことのできない歴史上の事実として私たちに認められることである。福音を語るということにおいては私も終始苦しんでいるんだ。私はここに立つて自分の告白を皆さんにしているんですよ。世間の人はバルトがこう言った、内村鑑三はこうだと言うが、それが何だ、そういう借り物では私の良心が許さない。」そして最後はこう結びます。「我らの信仰は吹けば舞つていくような信仰だが、よろしい。質においてはパウロ、ルターと同じである。我らは罪の赦しにあずかって新生した者であると、はっきり考えなさい。十字架につけられたキリストの目的は、死も復活も一体である。」

何という誠実さでしょうか。何と純で偽りのない言葉の吐露でしょうか。ここに収録されている説教は、いずれも言葉の厳

### クリスティン・ジャック編 永井みぎわ訳

### 世界がぶつかる 音がする サーバントの物語



すいせん言葉・フィリップ・ヤンシー氏  
この本は、まさにその負しい人たちに会わせてくれる。彼らの名前を知り、彼らの生き方に触れることができる。彼らの揺さぶるような証言に耳を傾ける中で、私も自分の世界とのぶつかりを感じた。

100年に向かって歩み続ける

キリスト教雑誌 2016 第4号

# 共助

《夏期信仰修養会 8/3-8/5》案内号  
案内、プログラム、申込はHP参照  
<http://www.kyojokai.com/>

- 説教 勇気を出さない。 飯島 信
- 随想 わたしは既に世に勝っている。 西川良三
- 随想 東日本大震災と私
- 随想 平和を実現するために 木下安子
- 巻頭言 六十九回日の憲法記念日と緊急事態条項 小菅敏夫
- 聖書研究 I テサロニケ⑤ 七條真明
- 報告 初めて佐久教会に参加して学んだこと 千葉 雄
- 【証】 小笠原 順、中西 博、佐伯邦男

バックナンバーもごさいます。  
お問合せは、基督教共助会またはヨベル迄

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
\*自費出版の専門出版社\*資料・星



生ける書物、美の衝動  
ヨゼフ・ドミヤン 版画、押田成人 詩

## 白い鹿



若松英輔

目の前にあるものが何か分からないとき、私たちはまず、それに名前を与えようとする。命名することは対峙と認識のはじまりなのだが、ときに対象の姿をいたずらに小さくしてしまうこともある。優れた書物はそうした存在の典型だろう。生ける実在はいつも、私たちの眼に映る部分の総和よりも大きい。

この本は、ハンガリー出身の稀代の版画家ヨゼフ・ドミヤンによる十六の鹿をモチーフにした連作と三つの色彩版画が収められ、それら一つ一つにカトリック司祭押田成人が寄せた詩のような書によって成り立っている。ドミヤンの作品集であり、



Starry Deer (本書より)

また、押田の詩集だとも言える。だが、それら二つの要素を別々に説明しても、この書物が何であるかを語ることはない。そこには不可視な何かが厳然と

存在するからだ。それは「出来事の報告」にほかならないと押田はいう。

出来事、と押田がいうとき、そこには著しい超越からの働きかけがある。超越の働きは遍在している。だがそれは、あるとき、目を閉ざしている者にも明らかな形で世に生起する。また、出来事という言葉には、それが今も動き続けていることが含意されているようにも思われる。紙面の上では止まっているように映る版画も書も、それを手にする者の心のなかで再び動き始めるというのだろう。

仕事で押田がニューヨーク郊外に滞在しているとき、「事件」は起こった。道を歩いていると見知らぬ男が声をかけて来たのである。自分は芸術家で、家には作品が沢山ある。ぜひ、見に来てほしい、という。外国の森の道で、何の前ぶれもなく、未知の芸術家を名乗る男から自宅に招かれる。ほとんどの人は申し出を受けることはないだろう。それが穏当であり、常識的でもある。だが、出来事はそうした通常の思惑の彼方で起こる。その男がドミヤンだった。押田は何かに導かれるように彼の家

にいった。

作品を目にした後はもう、言葉は不要だった。二人は、会ったその日に十年の知己になった。なぜあのとき声をかけてくれたのか、と繰り返される押田の問いにドミヤンは「私にはわかりません。ただ、どうしてもこの人をつかまえると、内的なものに強制されたんです」とこたえている。二人のあいだには抗うことのできない衝動が働いている。ここでの衝動と欲望は違う。欲望は人間の欲求を満たすことだが、衝動は魂の空白を埋めてくれる超越の働きを渴望することをいう。

人が意味を認識するのは言葉からだけではない。文筆家が文字を用いるように音楽家は旋律で世界を語ろうとし、彫刻家は形によって世界の意味を掘り下げようとする。画家はそれを線と色、そして構図によって行う。このような言語の様相を超えた生ける意味のうごめきを「コトバ」と書くことにする。この本では版画と書、二つの美のコトバが響き合っている。前ページにある版画に押田は、次のような一節をささげている。

「星々の間 宇宙のこだま

三度 生れし時の顔

宙を飛ぶ

変容の魂

角の翼に

影映りぬ

月 近し」

この本を貫くモチーフは狭義の宗派的宗教の世界観ではない。それは敬虔と聖性、さらには生命の躍動に裏打ちされた霊性のそれである。現代では真や善が唱えられるときですら争いの種火になってしまふ。しかし美は違う。美は人間に、語ることを止め、心の奥の声を聞くことを促す。

ここで私たちが目にはしているのは押田の解釈ではない。ドミヤンは版画によって呼びかける。押田はそれに応じているのである。版画の呼びかけは今も続いている。個々の読者もまた、異なるコトバが胸に湧き上がるのを感じるだろう。

(批評家・わかまつえいすけ)

(A4判・二四八頁・本体一五〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

「新約聖書を真剣に読みたい」と願う者の待望の書！

浅野淳博、伊東寿泰、須藤伊知郎、辻 学  
中野 実、廣石 望、前川 裕、村山由美著

## 新約聖書解釈の手引き



河野克也

新約聖書を真剣に読みたいと願う者にとって、実に頼もしい手引きが出版された。本書では、現代の新約聖書学で使用される主要な方法論のそれぞれが熟練した導き手によって解説され、実際のテキスト解釈にどのように適用されるかの具体例も提示される。比較的馴染みの薄い方法論については用語集も付けられており、まさに痒いところに手が届く実用的な手引きである。ただし個々の方法論はバラバラに解説されているわけではない。序論において丁寧に説明されている通り、各方法論は、新約聖書を「テキストによるコミュニケーション」と理解する全体的な理論的枠組みによって配置されており、新約聖書を解釈するということが総合的で共同的な営みであることが示されている。アウトラインを示すと、序論に続いて本論が四部構成で展開される。第一部「生成するテキスト」では、第一章「本文批評」と第二章「資料・様式・編集」が扱われ、第二部「コンテキストとしての社会」では第三章「社会史的研究」と第四章「社会科学批評」、第三部「コミュニケーションとしてのテキスト」では第五章「修辞学批評」、第六章「物語批評」、第七章

「スピーチアクト分析」が扱われる。最後の第四部「解釈の自己点検」では、第八章「文化研究批評」と第九章「正典批評」が扱われる。紙面の都合上、各方法論にコメントすることはできないが、本書の全体的な特徴を挙げてみたい。第一に、従来の歴史批評に対して文学批評の比重が大きい。第二に、かつてはイデオロギー批評として神学者から半ば際物扱いされることもあったフエミニスト批評や解放の神学、ポストコロニアル批評といった視点が、解釈の自己点検として新約聖書解釈の本質的要素に位置づけられている。序論に指摘されている通り、新約聖書学は啓蒙主義と歴史主義を源泉とするが、それは歴史批評が近代の合理主義によって決定的に方向づけられていることを示す。近代の合理主義は、解釈者の主観に左右されない普遍的・客観的真理の探究をその目標と定めた。それは一方では、教会の教理的縛りから自由な立ち位置で歴史のイエスや最初期の信仰共同体の使信に肉薄することを目指すものであり、他方では人間理性への全幅の信頼に基づくものであった。初期の歴史批評にお

いては、解釈者が厳密な方法論に従うことで、「事実」（史実）やテキストの成立過程を正確に再構成できると期待された。二十世紀の聖書解釈の地平は、二十世紀の言語論的転回とポストモダンの認識論の挑戦を経て大きく様変わりした。解釈者自身のコンテキスト性を考慮しない解釈はもはや成り立たない。歴史批評は、厳密な再構成の可能性について楽観的に過ぎたのではないか（第二章の歴史批評の扱いは、抑制的効いた穏健なものである）。この点で、テキストを断片化する傾向のある歴史批評を補う文学批評の視点は重要である。

しかし、聖書解釈が解釈者自身のコンテキスト性から不可分でないことは、どの解釈も等しい価値を持つという相対主義を意味しない。自らの方法論に自覚的で、かつ方法論を総合的・横断的に用い、他の解釈者との対話による共同作業をすること、より良い解釈を目指すことができる。もちろん誰にとつて良い解釈か、何をもって良い解釈と言うかは厄介な問題である。

この点で、かつて侵略戦争によって近隣諸国を蹂躪した日本のコンテキストにおいて、特に侵略戦争を美化し愛国心を強要する時代状況において聖書を読む私たちにとって、（自らを含め）権力に対する批判的な視座を提供するポストコロニアル批評が重要性を増す。この点で本書が解釈の自己点検を強調する意義は大きい。個人的要望としては、各章の適用例に加えて、執筆者全員が同じテキストを扱うことで、これらの方法論が総合的にどのような解釈を提示するかをぜひ見てみたい。また「初学者」向けである以上、「比較的馴染みの薄い」方法論以外にも用語集があるとよいのではないか。本書によって新約聖書解釈への関心が高まり、解釈の共同作業が拡大することを期待したい。

（かわの・かつや 日本ホーリネス教団中山キリスト教会牧師）  
（A5判・三三八頁・本体三〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

日本聖書協会  
God's Word — Life for the World

7色刷カラー聖書地図入り

## 大型引照つき 口語訳聖書

再版のご希望が多かった、  
『大型引照つき口語訳聖書』。  
技術的に不可能とされていた  
7色刷カラー聖書地図を  
復刻した冊数限定発行です。

2015年に発行60周年を迎えた口語訳聖書は、「毎日出版文化賞」を受賞するなど話題を集め、キリスト教会、ミッションスクールに広く普及しました。文語訳読りの歯切れのよい文体で、現在も日本で愛用されています。



引照つき口語訳聖書

① クロス装 JC053

定価（本体6,500円＋税）

② 折革装/三方金 JC059S

定価（本体15,000円＋税）

※それぞれ、ケース入り、A5判。  
共に巻末に、カラー地図12ページ  
（ほかに地図索引12ページ）入り。

お問合せ ☎03(3567)1987（頒布部）  
<http://www.bible.or.jp/>

究極的な喜びは神を楽しむこと  
大沼潤子著

雑草庵日記



佐藤司郎

本書は日本基督教団仙台川平教会（旧外記丁教会）を夫君とともに長く牧し一九九八年春に引退教職となった大沼潤子先生の珠玉のエッセー集である。

全五三編、二〇〇〇年一月に書き始められ、二〇一四年末までのものが収められた（聖書の言葉を巡る一五の短文も収録され厚みと深みを加えている）。引退の「喪失感」をくり返し口にしながらも、むしろそれゆえに自由にまた軽やかに、身辺の出来事を取り上げている。「雑草庵」こと、仙台市郊外のご自宅の庭の季節の移り変わり、音楽や映画、そして何より読書のこと、ご家庭で起こったことなど、女学生の頃すでに小説を發表し福岡女学院時代の恩師（佐藤俊男牧師）には文学の道を勧められたという文才が、ここにきていかに発揮されたと言つてよいのかも知れない。

本書はまた著者のひそかな自叙伝でもある。一九三六（昭和一一）年に牧師の二女として生まれ、戦中から戦後、著者を取り巻くたくさんの人びと、とり分けたくさんのキリスト者たちと共に歩んで来た、その静かな証しである。著者の目を通して

生き生きと描き出された群像もわたしにはとても興味深く、教えられることが多かった。

戦中の様子を著者はこう書いている、「四歳の頃、父（萩尾茂）は福岡ナザレン教会の牧師として赴任した。戦時下となり、教会も人が集まらず解散状態になっていた。どうやって生計を立てていたのか定かではないが、私たちは姪浜伝道所に引越した。アーメン、ソーメン、ヒヤソーメンと囃し立てられたが私は何ら動じることはなかった。また従軍カメラマン、オダネルの有名な写真、長崎の「焼き場に立つ少年」に自らを重ね合わせこも記す（二〇〇八年）。「思えば私の戦後もあのようであった。九歳のとき戦争は終わったが戦前戦後、貧しい牧師の家庭で食べるものはない、お金もない、ひもじい。ましてキリスト教は敵国の宗教であった。私はあの少年のように唇をかみしめじつと耐えて生きていた」。

献身を考えるようになったのは高校三年の時である。前年「病気で一年休学、この間しかしジイドに親しみ「一粒の麦」として「総てを献げたい」と決意した。潤子先生は神学校三つ入

つたらしいとはどこかで耳にしていたが、今度のエッセー集で事情がよく分かった。最終的に祖父と叔父の学んだ東北学院のキリスト教学科に編入学し、一九七〇年第三期生として卒業された。今日までつづく神学教育の伝統を築いて下さったことは感謝にたえないところである。大沼隆牧師との出会い、外記丁教会での「悪戦苦闘」と移転のこと、川端純四郎先生のことなど実際に手にとつて読んでもらう以外にない。

この本からうかがい知る人生の冒険の最大ピークは何と言つても三十九歳の時二人のお子さんを置いて「夫の反対を押し切つて」敢行された渡欧であろう。パリの日本館に森有正を訪ねてジイドについて語り合った。何か満たされないものを抱えたまま飛んだ異国で「名著『バビロンの流れのほとりにて』の森有正の死の前に会つた後、三十九歳の私はサンジェルマン・デ・プレ教会の中で呆然としていた。丸い石の柱が暖かい。石造りなのに教会が暖かい。凡てを包み込む母のような暖かさの

中で私は不覚にも涙を流した。熱い涙と共に私は決して負けな

いと心に誓つた」。

一五年にわたつて書きつづけられた身辺随想、はじめの「喪失」の響きは少しずつ薄らいでいったように見える。代わつて過ぎ去りゆくものへの愛おしさ、そして生命と喜びが、基調音として響き始める。それがいつ頃からか、分らない。自然に向ける眼差しも変わつていった。「生きることは人生を愉しむことだと思つている。楽しめば楽しむほど人生は味わい深くなつてくる。究極的な喜びは神を楽しむことである」（二〇一三年）。

著者は、戦争を知らないわれわれより少し上の世代、しかし言及される文学作品はいずれもわれわれも親しんだものばかり。ああ、ぼくももう一度読んでみようかな、そんな思いがわたしの胸を満たした。

（さとう・しろう＝東北学院大学文学部総合人文学科教授）  
（四六判・一九二頁・本体一六〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）



大崎節郎著作集

第三巻 カールバルト研究1 (全7巻)

大崎節郎  
Setsuro Osaki



〈神の言葉の神学〉の誕生

カール・バルトの神学的出発となった『ローマ書』の登場が、20世紀福音主義神学の一つの決定的な転換をもたらした。その初期バルトの神学に迫る論考。バルト神学の重要な「予定論」「和解論」に関する論考を収録。

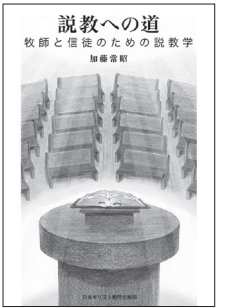
菊判・上製・函入・内容案内進呈  
定価【本体 7,600 + 税】円  
ISBN978-4-86325-084-0



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
http://www.ichibaku.co.jp  
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

深い愛をもって語る説教という業への招き  
加藤常昭著

## 説教への道 牧師と信徒のための説教



後宮敬爾

著者が現代日本を代表する説教者であることは論を待たないが、三〇〇名前後の説教者が登録をする説教塾の主宰者であり、季刊説教黙想誌「アレティア」の編集責任者であり、多数の説教・牧会学に関する神学書などの著者なのだから、現代のキリスト教界における「説教」界の巨人である。

一九六四年の『説教 牧師と信徒のために』から五二年を経て、著者八七歳の誕生日、そして伝道者として六〇年の歩みという節目に出版されたのが本書『説教への道——牧師と信徒のための説教』である。

本書の内容は、書名そのものが端的に表している。「説教という業への招き」である。しかも、その招きは信徒に対するものでもあるようだ。

序章で「読者が確信を持って説教ができるようになっていくこと」という目標を宣言し、第一章では、説教者としての召命を取り扱う。その最後に、「信徒説教者になる方たち」のためにも記していると語りかける。

たしかに文体は平易であり、難解な神学用語を用いることは

慎重に避けられている。あきらかに、この書は、信徒が説教者として立ちとうとするときの「道」を「ガイド」することが意識されている。

第二章では、説教の学びは永遠の課題であり、学び続けることの必要性が語られ、特に先人たちの説教を読み、聴くことが勧められる。第三章に入り、いよいよ説教そのものが語られる。説教とはどこまでも聖書を基準にして、聖書の言葉を今日の生きる人々に伝えて行く業であり、人々に悔い改めと救いの恵みを実感させる「愛の言葉」であり、「慰めの言葉」であるべきだと説く。そしてその説教が教会を神の言葉の共鳴体として形成するものとなるために、教義学の学びが不可欠であるとまとめる。

第四章では講解説教を具体的ににつくるために必要な七つの過程が「テキスト」という言葉を用いて案内されていく。七つの過程の中で著者がもっとも力を注いで語っているのが、「第二の黙想」と呼ぶ「積義を経た黙想」である。「神の言葉の論理を聴き取ること」「牧会者として教会員、求道者の日常を覚え

ること」「神学用語の羅列にならないように、現実に関わる言葉として聖書の言葉を聴き取ること」などの多重複層の真摯丁寧な黙想こそが説教の生命線であることが論じられている。

第五章で主題説教、第六章で説教批評について論じた後、第七章では四章で語られた七つのテキストを用いた説教作成のモデルとして、二〇一五年の説教塾トレーニングセミナーで一つの説教が生み出されていく過程がドキュメンタリーふうに記載され、これまでのまとめとなっている。この章の終わりには、その過程を経て生み出された、セミナー参加者による説教一編が収められている。

全編を通して感じさせられるのは、著者の愛の深さである。説教という業への愛の深さ、説教という業に携わりうとする同僚たちへの愛の深さ、そして現代の混迷する教会への愛の深さである。愛とは労苦を喜びへと変えるものに違いない。

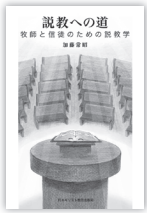
説教を語るという業は、井戸を掘る作業に似ている。かなら

## 説教への道 牧師と信徒のための説教

加藤常昭



60年の経験が注ぎ込まれた  
説教者への実際的な道案内



神の言葉として聴かれる説教の原点を確認し、聖書テキストに向き合い説教に至るまで、その歩みの同伴者として、実際に丁寧に解き明かす。  
四六判並製・178頁・1728円

## ルワンダ 闇から光へ 命を支える小さな働き

竹内緑



医療従事者として、アフリカの紛争地や難民キャンプで人々の苦難に寄り添い、和解を求めて働いてきた日々を綴るエッセイ。  
四六判並製・104頁・1296円

著者は六〇年にわたり説教者・伝道者として人並み外れた努力と研鑽と労苦を続けてきて、そして本書を「説教への道は、喜びの道です」と締めくくる。  
本書は、現代の教会の危機の中で、何か自分にもできることはないかと考えている信徒の方にぜひ読んでいただきたい。そして、説教者としての「喜びの道」へと召しを受け、歩み出す信仰者が一人でも与えられればと願う。

(うしろく・よしや) 日本基督教団霊南坂教会主任牧師  
(四六判・二七八頁・本体一六〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

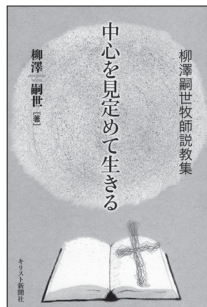
日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyout@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)  
<http://bp-uccj.jp>

魂に渴きを覚えるすべての人に

柳澤嗣世著

## 中心を見定めて生きる

柳澤嗣世牧師説教集



## 深井智朗

二年ほど前になる。知人の結婚式に出かけた。私はその方を高校生の頃から知っており、お母上の葬儀の司式をした。お相手の新郎は伝道者のご子息だと聞いていたが、そのご両親が牧師として奉仕をされた教会で式は行われた。不思議な出会いもあり、当時無牧であったその教会で数回説教を頼まれ、また教会学校の研修会で話しをすることになった。それが日本バプテスト深川教会で、本書はその教会に死の直前まで牧師として仕え続けられた柳澤嗣世牧師の説教集である。

この教会の教会学校研修会に出かけた時に感じたことがある。それは参加した方々の聖書の読み方も、教会学校の説教に注ぐ情熱の非凡さである。それで私はこの教会に出かけるたびに、教会員の方々はこれまでどのような説教によって養われ、どのような牧師と共に礼拝をささげてきたのだろうと想像するようになった。というのもしばしば教会形成的な説教ということが言われる。信仰を養い、整え、キリストの身体としての教会を建てる説教のことである。信徒の心を耕し、種を撒き、水を注ぎ、時には戒め、しかしどんな時にもあきらめずに「肥やし

をやり続ける」。言葉としてはよく聞くのだが、そのような説教を実際に聞くことはあまりない。ところが昨年、無牧の中でも教会を守り、命の水を飲むように聖書を読み、礼拝を誠実に捧げ、教会形成のために祈るこの教会の姿を見た。だからこそ、このような教会が形成されるために自らの人生の全てをささげた牧師の説教を聴いてみたいと心から願ったのである。どのような説教がこのような教会を形成するのか知りたいと心から思ったのである。

本書はそのような願いをかなえてくれた説教集で、収録された二〇の説教がこの問いに答えてくれる。先生の説教は研ぎ澄まされ、よく選ばれた言葉で語られており、言葉に力があり、生命がある。文学的構想力とでもいべき先生独特の聖書の積義に基づいた、イメージ豊かな言葉で満ちている。

「センスある生き方を求めて」と題された説教が収録されている。ローマの信徒への手紙一三章一節以下の説教である。その日の午後には同じ題で修養会が行われたようである。先生はパウロの「品位をもって歩む」という勧めをこのように表現

し、それは具体的には「今がどんな時であるかを知っている」生き方であると語りかける。センスがあるというのは「センサ―の感覚が優れていること」であり、それは「私たちの心の姿勢を整えること」なのであり、究極的には常に人生の「根底において死ぬ術を知っていること」なのだと言えよう。まさに先生の信仰がこのようなセンスに満ちたものであったのであろう。センスある生き方を求めた先生の信仰は見事に教会員に伝えられ、受けつがれ、そしてセンスある教会が形成された。先生の生き方それ自体が語っているので先生の説教には力があつたのである。

伝道者パウロはかつて愛するテサロニケの教会の人々に「わたしたちはあなたがたをいとおしく思っているので、神の福音を伝えるばかりではなく、自分の命さえも喜んで与えたいと願ったほどです。あなたがたはわたしたちにとって愛する者となつたからです」と語った。このようなパウロの伝道者としての

センスが先生に受け継がれ、まさにこの教会のために命まで捧げられた先生の信仰センスは、この教会のセンスとなったのだと思う。

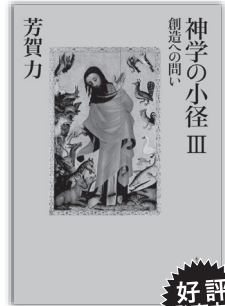
聖書を読み、礼拝を捧げ、教会を建てようと呼ぶすべての方々に本書をお勧めしたい。また魂に渴きを覚えるすべての人にこそ本書を手にとっていたきたいと思う。

（ふかい・ともあき）東洋英和女学院大学人間科学部教授  
（四六判・二八〇頁・本体二〇〇〇円＋税・キリスト新聞社）

キリスト新聞社の本

Kirisuto Shinbun, Co., Ltd.

▶神学の基礎知識を網羅



好評発売中!

## 神学の 小径Ⅲ

創造への問い

創造信仰と自然科学 芳賀力 ●著  
■A5判・440頁・4,500円



## ▼チャペルアワーで語られた現代を生きるための奨励集! すてたもんじやない

同志社大学チャペルアワー・メッセージ  
——同志社大学チャペルアワー・メッセージ  
越川弘英 ●著  
今、キリストの福音を伝える！ 現代人に向けて語られたメッセージの数々。  
■四六判・216頁・1,000円

キリスト新聞社

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1  
TEL 03-5579-2432  
FAX 03-5579-2433 (価格税別)  
E-Mail support@kirishin.com  
URL http://www.kirishin.com

歴史の中で神の前に立つ人間の責任  
川端純四郎著

教会と戦争

教会と戦争

川端純四郎  
Kawabata Junichiro

小海 基

しよせん大学生なんて恩師のことを半分も理解していないのだなあと、読了後つくづく思わされた。

著者は私の恩師である。私は七〇年代後半、今はもう存在しない東北学院大学文学部キリスト教学科（現在は「総合人文学科」に再編）に在学していた。当時、実力もあり活躍もしていながら「助教」の処遇を受け続けていた「名物教師」たちが、母校ばかりでなく全国あちこちの巨大化した「キリスト教大学」の中にいた。それは「大学紛争」の大きな「傷跡」だった（著者に対する不当な処遇の「真相」を本書巻末の「編集後記に代えて」の中で浅見定雄先生が書いている）。浅見先生も含むこうした「名物教師」たちの多くは、遅ればせながらも最後には「教授」となって定年を迎えていくのだが、川端先生だけは最後まで「助教」だった。しかしそれを強いた側にとっては意外だったろうが、そのことが先生の研究をいささかも縛るものでなく、退職後の一四年間に主著、話題作が続々と出されていくのである。恵まれた環境や書齋が神学の母体ではないという、本来は当たり前のことを、私たちはこうして師の姿を

通して具体的に教えられ続けた。

本書には、小さな会場で語られた講演もたくさん集められている。平易な語り口であるが、内容豊かで重いテーマが実に自伝的に身近に語られる。聴衆以外にはほとんど知られることのない講演録の中に、こんな宝があるのを発見し、丹念に掘り起こしてくれた編者たちの労に敬意を覚えると共に、多くはない聴衆の前でも決して手抜きせず、これほど真摯に語りつづけた先生の姿勢に改めて襟を正される。先生の父上は一五歳で上京し、馬車引きをしながら苦学していたが、ある時本郷中央教会から流れる賛美歌に誘われ、ついに献身して牧師となった。この父を生涯尊敬し続けた「牧師の息子」の鑑のような先生の姿を私たちは知っている（授業でもこのエピソードは必ず語られた！）。その先生が、本書の表題となった「教会と戦争」の中で戦時下必勝を祈る父の姿を率直に記し、教会の戦争責任を指摘する際、父親たちの振る舞いを強いられた「信徒」どころか「自発的信徒」ではなかったかと辛辣に述べているくんだりはすこぶる印象的だ（二八頁）。

もちろん私は先生の政治的立場に完全に同意するものではない。「なぜ日本共産党か」（二四二頁）で語られている、先生が社会党や「社青同」に愛想を尽かしたいきさつや、「二十五」もなつて初めて政治や経済の問題に目覚めて、そして三十五になつて初めて日本共産党と手を繋ぐようになった「プロセス」は、私も理解と共感を覚えるが、「党」という仕組み（党議拘束）や「査問」といった負の面の限界を語らずここまで発言してしまうのは、少々素観的すぎないかと思わなくもない。

しかし信仰告白とは何かをめぐる先生の考察、神の前に立つ人間と歴史に責任を負う人間とは二元的に分けられるべきでないのだから真剣に社会科学的な知見を求めようとする姿勢、そこから生じる教会の社会的責任、平和への取り組み、個人的敬虔の言葉に終始するのでなく場合によっては国家とも戦わなければならぬ教会の「戦う組織」としての自覚化、その線上にある合同教会の形成、あえて政治変革に触れようとしない昨今

のエキユメニカル運動の限界……等の指摘には覚醒させられる思いがする。ここには私たちの今の「問い」に対する明確な「答え」が示されている。私はさっそく本書を自分の教会の「有職青年会」修養会のテキストに指定した。

なお『教会と戦争』という題名ゆえに手に取る機会を失ってしまう人がいるといけないので付け加えておくと、本書には賛美歌論、教会音楽論、奏楽者論の数々が収録されている。ここには先生の生き方に大きな影響を与えたバツハの「職人性」と「客観性」が深い敬意を込めて語られており、いわば先生自身「信徒の神学」となっている。ここは必読の部分だ。編者は「学術的性情」を持つ「第二巻」以降の刊行も匂わしているが、ぜひ実現を望みたい。

（こかい・もとい 日本基督教団荻窪教会牧師）  
（四六判・四三四頁・本体二五〇〇円＋税・新教出版社）



新刊  
死生学年報  
2016

生と死に寄り添う

東洋英和女学院大学  
死生学研究部編  
●A5判並製 本体2500円＋税

「良き死」の諸相  
津曲真一

●  
継続する絆をつなぐ  
宗教的資源  
谷山洋三

●  
死に抗って一  
死をまぢかに控えた人間はなぜ  
リハビリテーションをするのか  
松岡秀明

●  
ツイリスの天井画にみる生と死  
鈴木桂子

●  
『ギルガメシュ叙事詩』の新文書  
渡辺和子

●  
人間のいのちの尊厳は  
どこにあるか？  
森岡正博

●  
死に向き合うことで生まれるもの  
片岡朝子

●  
『イナンナの冥界下り』を  
シュメール語で  
上演することについて  
高井啓介

●  
他、12篇

LITHON [リト]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402  
FAX 03-3238-7638

ルネサンス人文主義の巨星の神学思想を読む

エラスムス著  
金子晴勇訳

キリスト教古典叢書  
エラスムス神学著作集



加藤 武

I 共振

わたしはかねてからアウグスティヌスの『キリスト教の教え』が、その後西欧においてどのように受容されたかに関心をいだいてきた。このたびこの大著の中でエラスムスが『真の神学方法論』において『教え』をくりかえし引用し、じつにその核心に触れていることに気づき驚喜した。たとえば、放蕩息子の譬え話は、譬えなしに語られるときよりも「いつそう激しく魂を打つ」(二九六頁)。イサクが老いたサラの胎から生まれたという物語を譬えで話すと、むき出しで語るよりも「水晶や琥珀によっていつそう魅力的に加工されて輝き出る」(二九七頁)。アウグスティヌスは「あなたの歯は洗い場から上つて来た毛を剪られた雌羊のようだ。みな双子を産んで、その中には一匹も子のないものはいない」(雅歌四・二)を例にあげて言う。

「それでは言われた事柄も、そこで知られる事柄も同じであるのに、聖書の中ですこしも比喩が述べられない場合よりも、比喩を使うとはるかに美しく見えるのはなぜであ

ろうか」(『教え』二・六・八、拙訳『アウグスティヌス著作集』第六卷、八六頁)。  
およそ千百年というはるかな時のへだたりをこえて、なんと  
いう巨星同志の共振であろうか。

II 「王」

『対話集』の「敬虔な午餐会」は、主人公エウセビウスが友人を郊外の別荘にまねくという設定にはじまる。金子晴勇氏は「この対話編の魅力は少なからずそのセッティングにあるように思われる」と言う(『解説』六七八頁)。なるほど「王様のような荘宅」の庭園に招かれた九人の客人たちは昼餉の前に草木、泉水、立像、回廊と、趣向をこらした庭園を腹ごなしに散策にでかける。いちばんのスパイスは食前に腹ごなしになることですよ、と云って、主人エウセビウスは客人一同の哄笑を誘う。しかし最高のもてなしは食前の、侍僕による聖書の短い一節(箴言二一・一一―一二)の朗読と、それをめぐる活発な主客の対

話——ロゴスの饗宴——にある。とはいえ空腹をうったえる客人には、これでもいささか長かるうが。

「水の分流のように、王の心は主なる神の手のうちにあり、主が欲するところへこれを向けたもう。人の歩む道はすべて自分には正しいと思われる。しかし、主は人の心を吟味したもう。憐れみを施し、正しい判決をなすことは犠牲を捧げることよりも主に嘉せられる」(四九三頁)。

ロゴスをビッケルにした聖書解釈の登攀が頂きにさしかかると主人はしりぞき、こんどは白髪の子モテウスが座長としてキーワードの章句をときあかす。

「ここに〈王〉とあるのは完全な人間と見なされること  
ができ、その人は肉の情念を抑制して、ただ神の御霊によ  
つてのみ導かれています」(四九六頁)。

金子氏によると、ここでエラスムスは箴言の章句にかくされた意味を読み解いて、「キリスト者の自由」の理解にまでおおよんでいる(六八三頁)。ルターとエラスムスの自由意志論争については、金子晴勇『エラスムスの人間学』(知泉書館、二〇一一年)第八章「ルターとの「自由意志」論争」にくわしい。ティモテウスはささきの聖書朗読の直後に言う。

「この聖書だけそう(読んでいればよい——挿入は筆者)というわけではありません。プリニウスはキケロの『義務について』を決して手放してはならないと記しております」(四九三頁)。

このようにだいたいな補足をわすれない。ギリシャ・ローマの古典をこよなく愛したルネサンス人の面目躍如ではないか。さらに注意すべきはルネサンスの冠冕をなすものはじつに聖書なのである。

エラスムスは『新約聖書の序文』において言う。

「キリストが〈再生(レナスケンティア)〉と呼ばたもうたキリストの哲学とは、良いものとして造られた自然の回復にあらざして何でありますか」(二三五頁)。

これはエラスムスによるルネサンスの定義である。

おわりに

このたび刊行された『エラスムス神学著作集』の金子晴勇氏による訳業は、二十一世紀の日本のキリスト教徒にキリストから贈られた尊い一粒の種子ではないか。

(かとう・たけし 立教大学名誉教授  
A5判・七二二頁・本体六八〇〇円+税・教文館)

修道制の起源に迫る第一級の資料  
戸田 聡編訳

## 砂漠に引きこもった人々 キリスト教聖人伝選集



久松英二

本書は、アントニオスやマカリオスを代表とする「砂漠に引きこもった人々」、すなわち四世紀にエジプト、パレスチナ、シリアなどの砂漠地帯に隠棲した初期の修道者たちの生涯や言行を伝える伝記的作品群の中から五篇を選択し、その邦訳を収録したものである。初期キリスト教修道制の歴史研究において、今や本邦第一人者に位置付けられる戸田聡氏のおよそ二〇年来の精力的な研究活動のエッセンスとも言うべき貴重な業績で、とりわけ、修道制の起源史研究におけるその資料的価値はきわめて高い。

「キリスト教聖人伝選集」という副題が示す五篇の聖人伝は、掲載順に、ヒエロニムス著『テバイのパウルス伝』、アタナシオス著『アントニオス伝』、ヒエロニムス著『ヒラリオン伝』および『囚われの修道士マルクス伝』、最後に著者不明『エジプト人マカリオス伝』ギリシア語版である。以上五つの伝記のうち、『パウルス伝』は荒井洋一訳『最初の隠修士パウルの生』（平凡社『中世思想原典集成4』所収）として、また『アントニオス伝』は小高毅訳（『同上』所収）のものがす

でに公刊されているが、後者については、いわゆる「最古のラテン語訳」からの訳出であり、ギリシア語原文からの翻訳という意味では本書の訳が初訳ということになる。『エジプト人マカリオス伝』については、戸田氏が二〇〇七年に一橋大学の紀要で同書のギリシア語原文及び日本語訳を刊行しており、それに若干手を加えたのが今回の訳である。『ヒラリオン伝』及び『囚われの修道士マルクス伝』は初訳となっている。

『テバイのパウルス伝』における注目点は、著者ヒエロニムスが、このパウルスをアントニオスに先立って砂漠で修道生活を始めた人物として描いている点にある。これが事実ならば、「修道者の祖」としてのアントニオスの看板は下ろされることになるが、戸田氏は、この伝記は史実を伝えるものではなく、ヒエロニムスによる文学的創作である可能性が高いとして、パウルスの実在性を否定している。

アタナシオスの『アントニオス伝』は、言うまでもなく、初期修道史伝中、最も名の知られた作品で、戸田氏によれば、「キリスト教的伝記の古典的位置」を占め、「聖人伝という文学

的ジャンル」の「祖型を提供した」著作である（二八六頁）。

『アントニオス伝』の中でひととき目立ち、事実アントニオスの生涯に最も重要な役割を果たしている要素は「悪魔」ないし「悪霊ども」である。これに関わるエピソードおよびそれについてアントニオスの教えが中心の主題になっているのは明白で、事実、『アントニオス伝』には砂漠に隠棲した主人公に対する執拗なまでの悪魔の峻烈な攻撃の様子が神話的脚色で描写され、そのモチーフはキリスト教美術にも大きな影響を与えた。

『マカリオス伝』の主人公マカリオスは、「アントニオスと並んでエジプトの初期の修道制におけるビッグネーム」（二九三頁）で、「言わばスケルティスの開山者」（二九四頁）であると、戸田氏は指摘する。アントニオスはまったくの孤独のうちに生きる「隠修士」であったが、しだいに「ラウラ」と呼ばれる隠修士たちの群居地が発生した。スケルティスはそうしたラウラの代表的地域の一つで、その「開山者」がマカリオスである

ならば、「ビッグネーム」との表現にも納得がいく。ただ、『マカリオス伝』は著者不明とされているが、同伝記の冒頭に「聖サラピオンが著す」（一九五頁）とあり、これとの整合性について、戸田氏が言及していないのは不思議である。ヒエロニムスの作とされる『ヒラリオン伝』と『囚われの修道士マルクス伝』も、小品ながら興味深い。

最後に、戸田氏の翻訳の読み易さは特筆すべきこととして強調したい。すでに多くの訳書を手掛けているだけに、その豊富な語彙力と鋭敏かつ的確な表現力が遺憾なく発揮された優れた業績である。

（ひさまつ・えいじ＝龍谷大学教授）  
（A5判・三〇八頁・本体三五〇〇円＋税・教文館）



教文館の本

牧師・神学生必携!



## ギリシア語新約聖書釈義事典

H・バルツ／G・シユナイダー編 荒井献／H・J・マルクス監修

新約聖書本文に現れる全ギリシア語語彙の文脈的・歴史的・神学的意味を解き明かす比類ない事典。教職者・神学生必携のロングセラーを小型化・軽量化。

●A5判・函入・三巻セット・本体63,000円  
第I巻544頁／第II巻644頁／第III巻600頁

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
TEL 03-3561-5549  
呈 図書目録 ●価格は税抜



# 本屋さんを選んだ お勧めの本

## 『祈りのともじび』

平野亮二編



1,200円+税  
日本キリスト教出版局

新生館 神吉 学

二〇一六年のキリスト教本屋大賞にもノミネートされた本書は、キリスト教二〇〇〇年の信仰の先駆者たちがのこした祈りをまとめたものです。有名なアッシジの聖フランシスコの「平和の祈り」や、一度は聞いたことのあるけれども、誰の祈りなのか知らなかったものも記されています。未信者の方のプレゼントにも最適な一冊です。

## 『私のぞすべる くらこくら』

沢 知恵著



1,500円+税  
新教出版社

月刊『福音と世界』（新教出版社）に連載され反響を得た随想を一冊にまとめた本です。  
シンガーソングライターである著者が、自身の歩みに触れつつ音楽（アルバム）と、さまざまな出来事をつづっています。私も著者と同年代なので、どこか懐かしさも覚えつつお勧めしたい一冊です。

### 新生館

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-7-7

TEL: 092-712-6123

FAX: 092-781-5484

E-mail: info@sinseikan.jp

URL: http://www.sinseikan.jp/

北海道キリスト教書店 亀岡 徹

## 『絵本に魅せられて』

佐藤英和著



1,800円+税  
こぐま社

25年前、書店で働き始めました。子育て真っ最中の父親初心者私にとって、絵本の素晴らしさや大切さに目覚めさせてくれたのは、著者であるこぐま社の佐藤さん（あえてそう呼ばせていただきます）でした。北海道のあちこちで絵本の講演会を開催しながら同行販売、本当に素晴らしき経験することができました。

佐藤さんの講演は、いつも暖かく柔和で参加者をホッとさせてくれます。ベストセラーとして長く読み継がれている絵本が、なぜ子どもたちの心を掴むのか？そこには文字を読んでしまう大人の知らない世界が隠されているからなのです。面白いエピソードを交えながら語る佐藤さんの言葉は絵本そのものであり、聞く者一人ひとりの心を魅了しました。

氾濫する情報、悲し過ぎる子どもたちの事件。この本を通して絵本が子どもたちにとってどれほど大切なのかを知り、よき絵本を選ぶときの羅針盤として、お手元に置いてほしい一冊です。

## 『自分を知る・他人を知る—キリスト教カウンセリング講座ブックレット』

賀来周一著



1,500円+税  
キリスト新聞社

このブックレットシリーズは、昨今における教会の具体的な問題（心の問題・老い・薬物依存・精神疾患等）を取り上げ、キリスト者としてどのように考え対応したらいいのかを提起しています。

礼拝を中心とした教会がイベントに追われ、気がついたら教会内でのコミュニケーションがギスギスしたものになってしまった、というような事態にならないためにも本書を活用していただきたいと思います。

### 北海道キリスト教書店

〒060-0807 札幌市北区北7条西6丁目、北海道

クリスチャンセンター内

TEL: 011-737-1721

FAX: 011-747-5979

E-mail: kameeka@jp-shop.com

URL: http://www.jp-shop.com

■日本キリスト教団出版局

ガラテヤの信徒への手紙を読もう

——自由と愛の手紙

船本弘毅著

ガラテヤ地方（現在のトルコ）の教会に起きていた問題に対して、使徒パウロが福音に立ち帰るよう、愛をもって熱く語った書簡。パウロの語る、イエス・キリストに結ばれて救われ、愛によって互いに仕え自由を得た者の生き方が、今を生きる私たちキリスト者の生き方を導く。

四六判・162頁・本体1500円

聖書の中の祈り

大島力著

祈りは、日々の信仰生活において、神と私たちをつなぐ最も大切な絆である。アブラハム、モーセ、イエス、パウロなど、旧・新約聖書に登場する12人の祈りを通して、聖書に学ぶ祈りの入門書。書き下ろしエッセイ「聖書の祈り 神と人をつなぐもの」も収録する。

四六判・128頁・本体1300円

## INFORMATION

### 近刊情報

■教文館

カルヴァン

——亡命者から改革者へ（仮）

C・シユトローム著

菊地純子訳

宗教亡命者としてジュネーヴに渡り、教会改革者となったカルヴァンの生涯と思想をコンパクトに解説。最新の歴史学的研究の成果を反映させた新しいカルヴァン像を描く。

四六判・176頁・本体2200円

■新教出版社

希望の倫理

ユルゲン・モルトマン著

福嶋 揚訳

常に現代神学をリードしてきた著者が、己の神学的営為の総決算とも言うべき書を書き上げた。1964年に『希望の神学』で衝撃的デビューを果たした著者が46年後に発表した21世紀の倫理。いま真の希望のありかを指し示す「終末論」。

今秋予定。四六判・440頁・予価4000円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区稲毛2-2-1 稲毛中央ビル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.kyobunkwan.co.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kirisutokyoushoten@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs/bs/ndv.html	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00560-8-51419
清光書店	951-8114	新潟市営所通 一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepages3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖繩キリスト教書店	903-0207	中瀬西町字錦屋777 沖繩キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

# 福音と世界

2016年7月号

特集 聖書と難民

寄稿者＝飯 謙、山口雅弘、金性済、石川えり、橋本祐樹

好評連載 聖書とわたし（黒沼ユリ子）、聖書

素説（金必順）、レヴィナスの時間論（内田樹）、新約釈義第三テモテ書（辻学）、消しゴム点描（望月麻生）、南島キリスト教史入門（一色哲）、現代日本の福音（高橋裕子）、詩篇の思想と信仰（月本昭男）、ことばの履歴書（佐藤優）ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL：03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

## 編集室から

本をプレゼントしたい時、相手のことを思い、相手が喜んであろう作品を選ぶと大いに悩むことがある。一体、どんな本を選べば良いのだろうか？ 自分では「これは面白い！」「なんと素敵なの！」と思って贈った本が、相手に全く響かないこともある。プレゼント用の本選びには、こうした思い込みによるミスマッチが案外多いのかも知れない。本をプレゼントするには、相手を良く知り、相手を思いやる気持ちが必要ならぬ。

教会やキリスト教主義学校の知人には、クリスマスやイースターの本、求道者向けの本、受洗、結婚、卒業、入学、就職などの節目にふさわしい本が喜ばれるだろう。家族には誕生日や記念日、母の日や父の日、こどもの日に、御言葉のメッセージ付き写真集や、詩文集などが良いかも知れない。そのほか、声

に出して読みたい絵本、本誌にも掲載されている本屋さんお勧めの本、表紙がオシャレで部屋の飾りづけにもなる本、お悩み解決本、小辞典、こどもが好きなキャラクターの本、学習図鑑など分野は限りなくある。

その人の蔵書を見れば人柄がわかると言われる。ならばよりいっそう本選びの想像力を働かせる必要がある。本は単なる物ではなく、精神的な営みをも含んでいるからである。だからこそ贈り物としての本は、ミスマッチすればとんだ誤解を受けかねない。しかし本をプレゼントするということは、本という「心のビタミン」を贈ることでもある。隣人に信仰生活の栄養補給として良書をプレゼントしてはいかだろうか。そのため参考として本誌を活用していただければ幸いである。

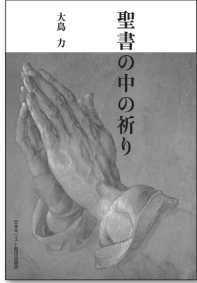
（友川）

## 本のひろば 2016年8月号 予告

本・批評と紹介…G・M・バーク他著『誰もが知りたいキリスト教神学Q&A』、本井康博著『新島襄と明治のキリスト者たち』、荒井 献著『使徒行伝 下巻』、土岐健治ほか著『イエスは何語を話したか？』、金子晴勇著『キリスト教人間学入門』、上林順一郎監修『教会では聞けない「21世紀」信仰問答Ⅲ』、平野克己編『聖書を伝える極意』、津曲裕治著『石井筆子読本』ほか

# 聖書の中の 祈り

大島 力



◆四六判並製・128頁・1404円  
アブラハムやイエスなど、旧・新約聖書に登場する12人の祈りを通して、聖書に学ぶ祈りの入門書。「信徒の友」連載を単行本化。

# ガラテヤの信徒への 手紙を読もう

船本弘毅

自由と愛の手紙



◆四六判並製・162頁・1620円  
ルターが愛したガラテヤ書を、現代を生きる私たちがどう読むのか。福音に立ち帰るようにパウロが熱く語ったメッセージを読み取る。

## イベントのご案内

シンポジウム

■発題者：福嶋裕子、大宮 謙、左近 豊

# 苦難と不条理の中でいかに聖書を読むか

『3.11以降の世界と聖書 言葉の回復をめぐる』の刊行を記念して

日時 2016年7月1日(金)  
18時～20時

申込み 日本キリスト教団出版局 出版第一課  
へお申し込みください。

会場 日本キリスト教団 美竹教会  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-17-17

TEL 03-3204-0424  
FAX 03-3204-0457  
Eメール shoseki2@bp.uccj.or.jp

入場無料

主催 / シンポジウム「苦難と不条理の中でいかに聖書を読むか」実行委員会  
共催 / 青山学院大学総合研究所キリスト教文化研究部、日本キリスト教団出版局

詳細はWEBで



第29回 キリスト教文化講演会 『新約聖書解釈の手引き』刊行記念

# 新約聖書をどう読むか

■講師：廣石 望、小林高徳

日時 2016年7月2日(土)  
13時30分～15時30分

申込み 教文館キリスト教書部  
へお申し込みください。

会場 教文館9階 ウェンライトホール  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1

FAX 03-3563-1288  
Eメール xbooks@kyobunkwan.co.jp

参加費 500円 ※定員は100名です

主催 / 教文館キリスト教書部、日本キリスト教団出版局  
後援 / 日本キリスト教文化協会

詳細はWEBで



# 十字架につけられた精神

小山晃佑 森泉弘次 著

アジアに根ざすグローバル宣教論



欧米と異なる文化と伝統をもつ地域で、福音はどのようにして伝えるべきか？ 東南アジアで宣教活動と神学教育に携わった著者が、その体験と諸宗教の特徴を踏まえながら、文化と伝統に根ざした宣教のあり方を提唱する！

●四六判・218頁・本体3,100円

小山晃佑の本

## 水牛神学

アジアの文化のなかで福音の真理を問う

アジアの伝統と信仰は両立できるのか？ 地域に根ざしたキリスト教のあり方を問う挑戦的論考。

●A5判 340頁・本体3,200円

6月の新刊 (価格表示は税抜)

## キリスト教会の役割を問う



森島豊

# 人権思想とキリスト教

日本の教会の使命と課題

なぜ、日本人は、「人権」を理解できないのか？ その法制史を丁寧に辿り、「人権」の本質を見つめ直す。中外日報社「第11回涙骨賞」最優秀賞受賞論文に加筆・増補。

●四六判・164頁・本体1,500円

## 勝又悦子／勝又直也

カタチにならないものの強さ



歴史の中で幾度も存亡の機を乗り越えてきたユダヤ人。彼らを支えたユダヤ教の教えや発想法から、この世を力強く生き抜く知恵が分かる！ 歴史・実践、人物伝、聖典や典礼詩文のテクストを味わい、奥深いユダヤ教を学ぶ入門書。

●四六判・352頁・本体2,500円

ユニークなユダヤ教入門

G・シユテンベルガー A・ルスターホルツ／野口崇子訳

## ユダヤ教 歴史・信仰・文化

豊かな伝統を誇るユダヤ教の信仰的特質を、ユダヤ人の生涯と生活様式から解説。

●四六判・224頁・本体2,100円

本心の扉 第七〇二号 二〇一六年七月号

発行所 〒100-0044 東京都新宿区新小川町九一-1 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話〇三三三三六〇一 振替〇〇一七〇一五二一六六七  
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株)平河工業社  
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三三三六〇一五六七〇

定価七八円(税抜七二円)(〒62円) 一年分一三〇〇円(送料共)



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 (出版部)  
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館